

宝塚小林農園
代表 山本 秀二さん

宝塚のロケーションを活かした農園を作りたい

山本さんはサラリーマン時代から、定年後のあり方を探り、自宅の畑を何かに活用できないかと考えていたそうです。そんな時宝塚NPOセンターが開催した『シニア起業セミナー』に参加されたことがきっかけでよりイメージを具体化、『宝塚小林農園』の実現につながりました。



●アンテナを張り巡らして多くの情報を得て、実行に移していく



宝塚の市街地の中に田舎(畑)があるというロケーション。これを活用できないのはもったいない。「一般的な貸農園は色々あるけれど、サポートや施設が整っていないことが多い。手ぶらで来てカフェでお茶もできる。農業指導も受けられ、初めて野菜作りされる方でも失敗のない農業ができる、そんな農園を作りたい」と山本さんはおっしゃいます。

生産緑地法の改正も大きなきっかけになりました。それまでは市街化区域内農地では多くの行為制限がありましたが2018年の法改正により農家レストランや野菜直売所の設置が可能となりました。宝塚市の農政課・都市計画課から助言をいただいたり兵庫県からの助成金支援などを受けたりして開業にこぎつけました。

こだわったのは「女性が来やすいように」と水洗トイレの設置は必須でした。ゆっくり楽しめて無農薬・有機栽培の野菜を自分で作って自分で食べられる農園を実現されました。またお子さんの食育や料理体験などをする中で様々なニーズをキャッチすることもできました。

●農作業体験を通じた社会参加・社会貢献を。やりたいことはたくさんある

山本さんとお話をしていると宝塚への愛を強く感じます。宝塚のために貢献できることは何か?を常に考えているそうです。

そんな中で、特産品として『すみれ』を活かした商品づくりをしたい。宝塚で品種改良された『宝交早生(ほうこうわせ)』いちごの復活などで宝塚をもっと元気にしていきたい。また就労支援の一環として農作業体験や料理体験で活用して欲しい。地域の学生さんたちとのコラボはできないか、農業セラピーを広めるにはどうしたら良い?などアイデアはどんどん湧いているようで、「これからが楽しみで仕方ない」とおっしゃいます。そして、そのためには、「一人ではできない。つながりや人の支えがあってこそだ」とおっしゃる姿が印象的でした。



宝塚小林農園

電話 090-8824-7450(農園) 090-4649-6292(カフェ)

H P <https://takarazuka-obayashi-farm.amebaownd.com>



新たに入会された皆さん
個人正会員

岩尾 宗神 肥田
崎 島 田 農 塚 中
奈 惠 淑 弘 真 敦
美 子 子 見 由 子

新たに入会された皆さん
賛助会員

犬 千 櫻 滝 松 松
塚 田 井 澤 本 永
秀 幸 有 実 立 啓
樹 子 香 穂 志 子

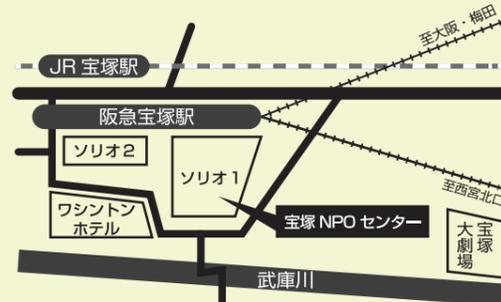
寄付をいただいた皆さん

カ 阪 濱 長 前
レ 神 本 野 田
ツ シ
ジ ニ 佳 嘉 裕
同 ア 子 行 保
窓 窓 会

(順不同、敬称略 期間:2021年12月2日~2022年3月10日まで)

(認定) 宝塚 NPO センター

〒665-0845
兵庫県 宝塚市 栄町 2-1-1 ソリオ1-3F
TEL:0797-85-7766 FAX:0797-85-7799
E-mail: zukanpo@hnpo.net
URL: <http://hnpo.net/>
発行人 中山光子



宝塚 NPO センター ニュース
TAKARAZUKA
NPO CENTER
NEWS

市民の手で市民活動を支える

110

このニュースの編集、発送はボランティアの皆さんにご協力いただいています

2022. 3

農園
塚小

農作業体験を通じた社会参加・社会貢献を



宝塚小林農園
代表 山本 秀二
山本 久美子

会員継続・ご寄付のお願い



<http://hnpo.net/support/>
※認定 NPO 法人への寄付は
税制面で優遇されます。

VISION

一人ひとりがありたい姿で
社会参加のステージへ立てる未来

MISSION

人と社会をつなぎ、
それぞれのHAPPYを応援する

VALUE

一人ひとりのスモールステップに寄り添う
LIFEとWORKの両面から見えた社会課題に向き合う
社会参加の新しい形を提案する



はたらく”IPPPO”を支援しました 女性のための伴走型就労支援事業

宝塚市から受託した女性のための伴走型就労支援事業『はたらくスタートIPPPO』は、2021年10月からスタート。宝塚NPOセンターの他の就労支援部門と連携をとりながら、働くための一歩を踏み出すサポートを行いました。

対面での就労相談では、働き方や業種・職種についての相談だけでなく、応募書類の添削や面接に向けての支援、オリジナルに作成した冊子『IPPPOワークBOOK』を使ったキャリアカウンセリングを実施しました。対象となる方には、宝塚地域若者サポートステーションやはたらく応援センターに繋ぎ、並行して支援を行うことができました。電話・チャット形式での相談にも対応しました。



また、週に1回、誰かに気持ちや悩みを話したい時に気軽に立ち寄れる『居場所IPPPO』を開催しました。鍼灸師やコーチングコーチがゲストとして来所し、一緒に悩みについて考え、話し合う回もありました。参加者からは、「悩んでいるのはひとりじゃないと知って気持ちが軽くなった」「お互い知り合いではないからこそ、気兼ねなく本音を話せる」といった感想が寄せられました。

1月・2月に開催した、WordとExcelの初歩～実践までを3日間で学ぶ『IPPPOパソコン講座』には、計36名が参加し、仕事に活かせるスキルを学びました。



家庭や介護と仕事の両立、経歴の活かし方や進路など、働くにあたって女性が直面する悩み・困難はたくさんあります。長引くコロナ禍で人と話す機会が減り、孤独を感じることも増えています。そんな中、『はたらくスタートIPPPO』は相談者一人ひとりに寄り添い、一緒に考える支援を実施しました。

2021年10月～2022年2月末時点での登録者数は58名、相談件数は149件となりました。登録者のうち20代から60代の10名が就職決定し、サービス業のほか介護・医療・教育分野等で活躍しています。

『住宅確保要配慮者居住支援法人』の指定を受けました

2021年7月から6カ月間『ひょうご居住支援団体発掘・育成支援事業』の補助を受け、高齢者やひとり親世帯、障がい者など住まいを見つけることに配慮が必要な方の支援を実施してきました。この経験の中で、本事業がその方らしい生き方を支える支援そのものだと認識しました。

そのため、まだ支援の手が届いていない方に支援が広げられるように『住宅確保要配慮者居住支援法人』の指定を申請し、1月31日付けで指定を受けました。

今後は就労支援部門との連携をこれまで以上に密にし、『居住』と『就労』の双方からのサポートで、安心できる住居と安定した生活を確保できるよう支援を進めていきます。



お忘れありませんか？

NPO法人が事業年度終了後にやることを再チェック!

NPO法人の皆さんは事業年度を3月31日までと定めているところが多いと思います。

事業年度終了後の4月以降、NPO法人としてやらなければいけない手続きがあります。手続きを怠った場合の罰則規定も定められています。抜けや漏れがないように再確認をしておいてはいかがでしょうか？

手続きの中でも特に、事業報告書は事業年度終了後3ヶ月以内に所轄庁へ提出する必要があります。事業報告書は3年以上提出を怠ると、認証が取り消しとなることもあります。

また、『貸借対照表の公告』が2018年10月から義務化されています。定款の中で定めた『公告の方法』に則って、公告の手続きを進めるようにしましょう。

役員の変更の年には、『理事の変更登記』も必要です。理事長が変更になった時はもちろん、『理事長が再任された場合』にも再任の登記を行います。

信頼される団体であり続けるためにも、定められた手続きをしっかりと進めていきましょう!

「大丈夫かな?」と思った時にはご相談を承りますのでご連絡ください。

ICTの力を活用した『地域活動』・『市民活動』

1月18日に『市民活動で活かすLINE公式アカウント活用法』講座を開催しました。

講師にはICTを活用して福祉や地域の活動に取り組む、NPO法人きんきうえぶの妹尾さんをお招きしました。



LINE公式アカウントを用いて『つながる』『まきこむ』コツを実践例を含めながらお話いただきました。参加者の方も活用のイメージができたようで、すぐにアカウントの作成をされた方がおられたことは嬉しい動きでした。

コロナ禍で活用が広がったオンライン会議も含め、ICTの力はさまざまな障壁を取り除き、新しいつながりをつくる可能性があります。今後もICTの活用を提案し、参加しやすく発展していく地域・市民活動につながるよう取り組んでいきます。

苦手を克服!シニア向けスマホ講座

11月には宝塚NPOセンターで、12月・1月には神戸市のNPO法人花たばさんが運営する高齢者マンション『コミュニティハウス花たば』にてシニア向けスマホ講座を行いました。

アプリの便利さに感心して意識が『苦手』から『興味』へと変化した参加者、理解が深まり他の参加者に説明される方など、皆さんそれぞれに一歩を踏み出していました。

今後もシニアの方が必要な情報を得られたり、チャレンジできる取り組みを実施していきます。



マッチング紹介動画とSWハンドブック完成!

令和3年度生きサポ阪神北で取り組んだ、団体マッチング事例を紹介する動画と、ショートワーク創出のためのハンドブックが完成しました。

動画では、宝塚小林農園さんとはなのいどりさんを、宝塚の地域特産品を生み出すためのエディブルフラワーの育成でマッチングした事例をご紹介します。ショートワーク創出では、誰もが生きがいを持ち働ける社会を目指し、多様な雇用を生み出すための手法や事例をご紹介しますので、ぜひHPからご覧ください。

シェアカフェ、一周年を迎えました

起業支援施設ShareCafeが一周年。3月から新たにオープンしたお店もあります。ぜひご来店ください。

